

令和 6 年度宇部市地域包括支援  
センター事業実施状況  
(令和 6 年 1 1 月末時点)

基本指標一覧

〔評価〕

評価	評価基準
○	市の示した指標を全て達成、もしくは達成見込み
△	市の示した指標が、何らかの理由により一部未達成
×	市の示した指標が、全て未達成

# 1 介護予防に関する正しい知識の普及と実施

- ・高齢者が介護予防について関心を持ち、普段の生活の中で積極的に取り組むことができるよう介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。
- ・身近な地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、高齢者の健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行い、保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する。
- ・高齢者の身の回りにおけるあらゆる資源を活用し、自分らしい活動的な生活を提案する。

## 基本指標

		指 標			評価
センター名	各地区6回以上/年	各地区10回以上/年	2件/年		
東部第1	東岐波：14回 川上：7回	東岐波：33回 川上：24回	0件	○	
東部第2	常盤：14回 西岐波：9回	常盤：11回 西岐波：7回	0件	△	
西部第1	西宇部：7回 厚南：5回	西宇部：9回 厚南：11回	1件	○	
西部第2	黒石：3回 原：2回 両地区：42回	黒石：56回 原：41回	1件	○	
中部第1	上宇部：7回 小羽山：6回	上宇部：9回 小羽山：8回	1件	○	
中部第2	新川：6回 鵜の島：4回 藤山：6回	新川：8回 鵜の島：6回 藤山：7回	1件	△	
北部東	厚東：4回 二俣瀬：4回 小野：3回	厚東：10回 二俣瀬：21回 小野：14回	1件	○	
北部西	吉部：8回 万倉：14回 船木：25回	吉部：4回 万倉：25回 船木：27回	1件	○	
南部第1	恩田：12回 岬：9回	恩田：45回 岬：8回	1件	○	
南部第2	見初：8回 神原：8回 琴芝：8回	見初：30回 神原：40回 琴芝：48回	3件	○	

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教室・出前講座・チラシ等により介護予防・認知症予防に関する知識や技術の普及・啓発を行えている。</li> <li>・サロンや地域行事等へ参加し、包括による講話や外部講師を招き、フレイル予防や認知症予防の周知ができている。</li> <li>・新たな試みである「自立支援型個別会議」は、各包括間でも情報共有しながら、年度末までの実施が見込まれる。</li> </ul>
------	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北部圏域では介護予防教室の参加人数が少なかったり、地域によって参加者の隔りがある。</li> <li>・支援者間で連携し、健康づくりや介護予防に取り組める地域資源の開発が必要。</li> <li>・高齢者が自分らしい生活を継続できるようなマネジメントが必要。</li> </ul>
----	--

## 2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

- ・認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、早期の相談や家族の支援体制を強化する。（相談窓口の周知・認知症カフェの開設、開催支援等）
- ・認知症サポーターの養成等により、地域、職域及び学校に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発するとともに地域見守り体制構築の支援を行う。
- ・地域の特性を鑑み、認知症当事者や家族、プラチナサポーターとともにチームオレンジの活動を推進していく。活動に当たっては、認知症当事者の視点を取り入れる工夫を行う。

### 基本指標

		指 標			
		①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する（認知症サポーター養成講座等）	③チームオレンジの活動を推進する	評価
センター名		4回以上/年	50人以上参加/年	各地区1件/年	
東部第1	6回	30人	東岐波：8件 川上：1件	○	
東部第2	17回	53人	常盤：17件 西岐波：2件	○	
西部第1	8回	212人	各地区2件	○	
西部第2	12回	140人	12件	○	
中部第1	3回	230人	上宇部：1件 小羽山：1件	○	
中部第2	4回	505人	新川：2件 鵜の島：6件 藤山：5件	○	
北部東	4回	66人	4件（圏域）	○	
北部西	3回	7人	1件（3地区合同）	○	
南部第1	10回	37人	恩田：11件 岬：3件	○	
南部第2	3回	85人	見初：2件 琴芝：3件	○	

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校や地域で認知症サポーター養成講座等を積極的に開催し、認知症の正しい理解を促進している。</li> <li>・プラチナサポーターとの協働による活動や、地域の支援者との協力体制が構築され、各地区の特色に合わせたチームオレンジの活動につながっている。</li> </ul>
------	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き地域に加え、職域や学校等にも積極的にアプローチし、幅広い年齢層に対して、認知症になってからも希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」に基づく理解促進に取り組むことが必要。</li> </ul>
----	---

### 3 地域支援体制の強化

- ・地域住民が安心して暮らすための「地域支え合い包括ケアシステム」をさらに進め、分野横断的に連携して相談対応ができる体制づくりを行い、ネットワークの拡大強化を図る。
- ・民生児童委員や関係機関等とともに高齢者が孤立することのないよう地域での見守り支援を行う。
- ・生活支援コーディネーターや住民等と協働で地区単位での支え合い会議を開催し、地域課題の把握や解決に向けた協議を行う。

#### 基本指標

		指 標		評価
センター名	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う（地域の会議・支え合い会議・行事に参加）		
	2回以上/年	各地区2回以上/年		
東部第1	2回	東岐波：2回 川上：2回		○
東部第2	2回	常盤：10回 西岐波：2回		○
西部第1	3回	厚南：2回 西宇部：14回 共通：8回		○
西部第2	6回	原：12回 黒石：12回		○
中部第1	6回	上宇部：2回 小羽山：2回		○
中部第2	2回	新川：7回 鶉の島：4回 藤山：1回		○
北部東	3回	厚東：2回 二俣瀬：2回 小野：8回		○
北部西	3回	吉部：1回 万倉：5回 船木：9回		○
南部第1	3回	恩田：5回 岬：2回		○
南部第2	2回	見初：24回 神原：10回 琴芝：9回		○

中間評価	地区の支え合い会議への積極的な参加や、地域・関係機関との連携や情報共有を行い、相談対応ができる体制づくりを行っている。
------	---

課題	地域で発生した個別の問題に対して、その発生要因を分析した上で地域課題を設定し解決策を検討していく必要がある。
----	--

## 4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

- ・複合化・複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問及び同行支援など継続的な支援を行う。
- ・地域住民の通いの場や支援関係機関等に積極的に出向き、潜在的な課題の早期発見、早期支援に努める。

### 基本指標

センター名	指 標		参考		評価
	①アウトリーチを実施した実機関数	②アウトリーチにより把握した実相談件数	総合相談受付件数		
	30機関／年	15件／年	実	のべ	
東部第1	30機関	15件	178	272	○
東部第2	29機関	26件	133	366	○
西部第1	39機関	12件	152	363	○
西部第2	25機関	21件	329	783	△
中部第1	34機関	11件	506	1,604	○
中部第2	36機関	35件	186	418	○
北部東	43機関	19件	137	505	○
北部西	30機関	8件	119	332	△
南部第1	32機関	28件	310	463	○
南部第2	36機関	19件	188	288	○

中間評価	サロン等への参加や民生委員との連携に加え、自治会長等地域関係者との関係づくりを実施し、支援が届いていない人の把握に努めている。また、郵便局やスーパー等でのサテライト窓口を定期的に開催し、アクセスの向上や周知啓発に努めている。
------	--

課題	アクセス向上のために実施しているサテライト窓口での相談が少ない状況にある。サテライト窓口の開催時期や周知方法について検討が必要である。
----	---

## 5 社会参加に向けた支援

- ・社会的孤立等の課題を抱える人に対し、本人の強みを活かすことができる社会資源を提供し、地域で自分らしく生きがいを持って生活できるよう支援する。
- ・課題解決にあたっては、生活支援コーディネーター等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出を促す。

### 基本指標

	指 標			評価
	①社会参加に向け連携した実機関数	②社会参加につながった実件数	③不足している社会資源を把握した実件数	
センター名	15件/年	5件/年	2件/年	
東部第1	15件	5件	2件	○
東部第2	14件	1件	1件	△
西部第1	10件	2件	2件	△
西部第2	13件	4件	1件	△
中部第1	11件	2件	3件	△
中部第2	19件	7件	3件	○
北部東	30件	10件	8件	○
北部西	6件	4件	1件	△
南部第1	12件	7件	1件	△
南部第2	38件	5件	4件	○

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的孤立からの社会参加には支援に長期間を有するが、本人の強みを生かした社会参加となるよう、本人の話を傾聴し息の長い支援を実施されている。</li> <li>・不足している地域資源（通いの場の不足、有償ボランティア、受診同行等）を把握することができている。</li> <li>・地域関係者と地域づくりについて協議をしている。結果、居場所を創出した包括もある。</li> </ul>
------	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区により社会資源が少なく、つなぎ先が難しい地区もある。</li> <li>・不足した社会資源について、関係機関と連携しながら、社会資源の創出に向け取組が必要である。</li> </ul>
----	--